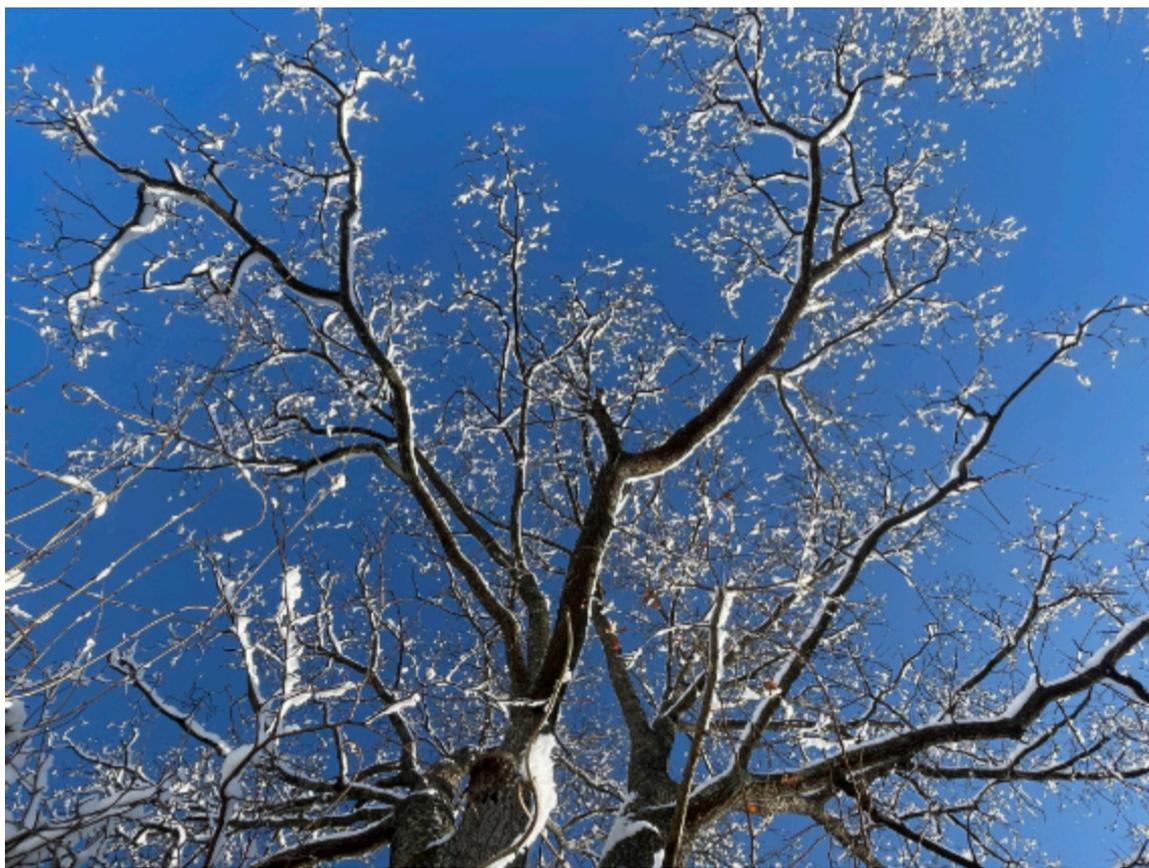


仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2024年1月号

森のおくりもの1

NO.388 The Gift from Woods



新年、あけましておめでとうございます。昨年は暑さにより、観察の森を訪れる人の少ない寂しい月もありましたが、今年は異常気象による生態系への大きな影響が無いよう祈願しつつ、一人でも多くの方々にご利用していただけるよう、楽しいイベントを企画して参りたいと思っております。素敵な瞬間に出会える自然観察の森を、よろしくお願いいたします。

【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『以耳代目(いじだいもく)』

今年の十二支は辰です。他と違い、辰（龍）だけ想像上の動物を当てているのは何故なのか調べたら、十二支の意味は植物の成長段階を表したものだという、驚愕の事実を知りました。それによると、辰の漢字には「草木が成長して形が整ってくる」状態が表されているようです。小さい頃から聞かされていた、順番を決める競争をして神様のもとへ到着した結果ではなかったのです。

それはさておき、十二支の竜にちなんで、漢字で土竜と書くモグラを話題に取り上げます。冬の地面には、モグラが土を盛り上げたもぐら塚が目立ちます。積雪がある地域では、雪解け後に現れるので春を感じさせるものの一つと思いますが、最近は雪が少ないため冬に見られる風物詩となりつつあります。何故土竜と表記するのか調べたら、漢字表記取り違い説がありました。中国ではミミズのことを“土竜”と書くらしいのです。きっとモグラの生態が書かれた文書を読んだ昔の人が、「モグラはミミズ（土竜）を食べる」という項目を読み違えてしまったのではないかと想像しました。ミミズは、細長くて土の中にいるへびみたいだから、ミミズの方を土竜と表現した方がしっくりします。ということは、今まで土竜の読み方を間違っていて教わってきたことになりそうです。かといって漢字のテストで“みみず”と書いたら×になるでしょうね。

ところで、冬にもぐら塚が目立つのは、地表近くは寒いので食べもののミミズが地中深くに潜るため、それを追っていくから夏場より余計な土が出るという説明を見ました。なるほどと思いましたが、ミミズの生態を調べたら、種類によって棲息している場所や寿命が違い、冬までに卵を産んで死ぬ種類もいるようです。モグラやミミズについては、まだわかっていないことも多いようで、本当はどうなのか謎でした。

『以耳代目』という言葉があります。「他人から聞いただけのことを確認せずに信じ込むこと。実際には見て確かめていないのに、聞いただけで信じてしまうこと」を意味します。今まで信じられていたことにも違う見解があります。最近はネットで何でも検索すればわかるので便利ですが、その情報は間違いかもしれません。情報が瞬時に流れてきますし、フェイクニュースというものもあります。AIがどんどん活用されるこれからの時代、本当かどうか自分で判断する力が一番必要なのかもしれません。 【レンジャー：新田隆一】



観察の森で見られる冬芽と葉痕

落葉樹は晩秋に葉を落とし休眠状態で冬を過ごします。春にふたたび芽吹き活動を開始するために準備されたものを冬芽といいます。また葉の落ちた跡を葉痕といい、種類によって様々な形をしているので形をおぼえておくとな名前を知ることが出来ます。観察センターの研修室に冬芽と葉痕の写真を展示しているので是非ご覧ください。今月はその一部を紹介します。 【レンジャー：齋 正宏】



サンショウ(ミカン科)



イヌザンショウ(ミカン科)



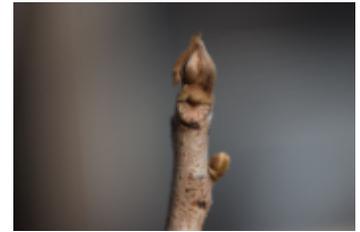
カラスザンショウ(ミカン科)



クズ(マメ科)



ヌルデ(ウルシ科)



ヤマウルシ(ウルシ科)



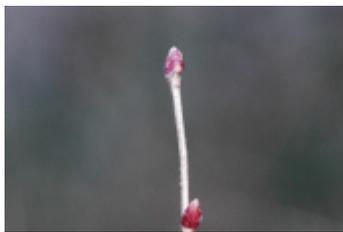
アワブキ(アワブキ科)



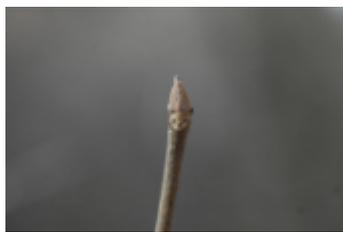
ネジキ(ツツジ科)



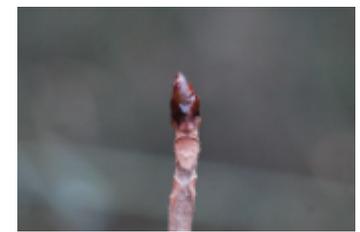
コクサギ(ミカン科)



ツノハシバミ(カバノキ科)



シラキ(トウダイグサ科)



トチノキ(ムクロジ科)

森の「あれこれ」



「野鳥を探そう！」



高速道路をくぐると観察の森の駐車場ですが、北側には筑川をはさんで里山の風景が広がります。せっかくなので耳をすませましょう。タイミングが良いと“ヒッ、ヒッ、ヒッ、ヒッ、ヒッ”と調子の悪い自転車のブレーキみたいな音が聞こえたらラッキー！声の方向を探してください。ジョウビタキの雄に出逢えるかもしれません。

ジョウビタキはスズメくらいの大きさの鳥で雄は頭の灰色、のどの黒、翼の黒には白斑、胸から尾羽の下部の燈色が特徴(上の写真参照)。秋に大陸から渡ってきて単独で冬を過ごします。森の中よりも明るく開けた環境を好むので河原や公園、緑地の近い住宅地でも見つかる可能性は高いです。

もちろん野鳥はこちらの都合で現れたりしません。「どこにもいない」と決めてかかると、いたとしても見えません。でも「必ずいる」と目と耳をフル回転させじっくり観察すれば、なにがしかの出逢いは必ずあります。野鳥の多い日本ならではのバードウォッチングの楽しさのひとつです。

野鳥観察を長く続けていると鮮やかな姿の雄よりも、一見地味ですが優しいまなざしの雌(左のキュートな写真参照)が好きという人、多いようです(笑)。雄と同じく翼の白斑と尾羽の燈色がポイントですよ。

本格的な寒さの到来。森ではコナラの葉が散り見通しが良くなりました。冬の野鳥観察にはベストシーズンです。あたたかい服装でどうぞ。

【レンジャー：木田秀幸】



森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*~*)

新年を迎えた観察の森、最も寒さの厳しくなるこの時期に、いまにも花を咲かせそうな樹木がありました。お辞儀をしたような丸い花芽が3個ずつ付いているのはマンサク。頂上に剣のような葉芽も見えます。こぶしを握った両手を広げているような花芽はクロモジ。鋭く尖っているのは葉芽です。花芽が黄色く膨らんでいるものもあります。花芽や葉芽は陽射しをよく受ける枝の先に多く見られます。これらができた去年の夏ごろから休眠状態になり、寒さや日照時間を感知してやがて眠りから覚めていきます。 ……(^♪



赤い実が3つ横に並んでいるのはヤブコウジ。艶のある緑の葉に対照的な色合いが素敵です。「十両」の名でも親しまれています。赤い実に白っぽい花芽を付けているのはミヤマシキミ。花が咲く4月から5月まで実が残っていたらうれしいですね。ヤブコウジよりも実が大きく「億両」の別名があります。一方、細い緑の葉の中に深い藍色の実を付けているのはジャンヒゲ。今年の干支ピッタリの「リュウノヒゲ」の別名があります。この美しい色は果皮ではなく種皮の色です。色の少ない冬の森ではありますが、葉の少ない時期だからこそ鮮やかな実や開花を待つ花芽が見つかりますよ。(^♪ 【レンジャー:菅原幸彦】

1月のイベント & お知らせ

イベント

◆「野鳥のレストラン観察会」

- 【日時】1月13日(土) 10:00~11:30
- 【対象】小学生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】観察センター周辺と餌台にやってくる野鳥を観察します
- 【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】1月6日(土)午前9時より電話受付(先着)

◆「かわいい雪だるまのリースを作ろう」

- 【日時】1月27日(土) 10:00~11:30
- 【対象】小学生以上 10名
- 【内容】自然素材で作った雪だるまや木の実などを接着してリースを作ります
- 【場所】観察センター研修室
- 【申込み】1月7日(日)午前9時より電話受付(先着)

◆「野鳥のレストラン」OPEN!

- 【日時】1月5日(金)~3月31日(日) 9:00~16:30の開館時間中
- 【内容】冬季限定で野鳥のために餌台を設置しています
餌を食べる様子を窓からそっと見ることができます



ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 7日, 14日, 21日, 28日

時間: 10:00~11:30

※12月~3月の冬季は午前のみ開催

休館日



9日, 15日, 22日, 29日

**毎週月曜日休館、年末年始
12月28日~1月4日まで休館**

観察の森へのアクセス

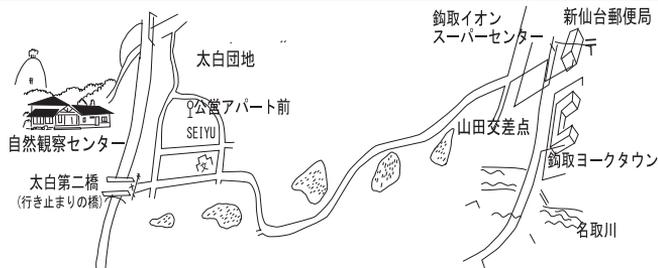


宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」
※③のみ「太白団地, 山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター